

独立行政法人家畜改良センターの平成30事業年度評価結果の主要な反映状況

1. 役員人事への反映について

|          |  |
|----------|--|
| 役員人事への反映 | 中期目標に定められた業務について、中期計画に沿った年度計画が順調に達成され、農林水産大臣による平成30年度の総合評価が「B」であったこと等を踏まえ、役員解任は行わなかった。 |
|----------|--|

2. 役員報酬への反映について

|          |   |
|----------|---|
| 役員報酬への反映 | 中期目標に定められた業務について、中期計画に沿った年度計画が順調に達成され、農林水産大臣による平成30年度の総合評価が「B」であったこと等を踏まえ、役員報酬の増減は行わなかった。 |
|----------|---|

3. 法人の運営、予算への反映について

| 評価項目  | 平成30事業年度評価における主な指摘事項  | 平成31及び令和2年度の運営、予算への反映状況   |
|---|---|---|
| 国民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためにとるべき措置 | 家畜防疫の強化及び衛生管理の改善等への取組については、新冠牧場において約2年ぶりに家畜伝染病予防法の家畜伝染病であるヨーネ病が摘発されたことを踏まえ、牛の摘発・淘汰を進めるとともに清浄化対策の強化を実施しているところであるが、四半期ごとの検査で続けて患畜が発生しており、清浄化に至っていないことから、計画的な防疫業務の実施及び防疫対策の自己点検の実施について計画どおり実施されたとは言い難く、改善を要する。 | <p>【平成31年度（令和元年度）】</p> <p>新冠牧場の清浄化に向けては、自主検査を行いながら、飼養頭数の調整も行い、対策の更なる強化に取り組んだ。しかしながら、摘発が続いたことから、関係牧場と連携して新冠牧場の遺伝資源を引き継ぐ牛群を再生することとし、家畜の飼養が一時中断する期間を利用して徹底的な清浄化・再発防止策に取り組むこととした。</p> <p>【令和2年度】</p> <p>専門家の意見を聴きながら清浄化・再発防止策に取り組む。家畜の飼養が一時中断する期間には、牛舎及び牛舎周辺の改良工事等も実施。場内環境の清浄性確認を行った上で、関係牧場において生産した更新牛の導入を開始する。</p> |